



メープルリーフ (カエデ)

花言葉・「美しい変化」

秋も徐々に深まり、岸中のカエデやザクロの実が夕日に映える季節となりました。先日の新人戦や様々な発表の場に、多くの保護者の方々、地域の方々に足をお運びいただき、生徒たちへあたたかいご声援を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

10月24日に4年ぶりの本校の国際交流事業にて私も団長としてカナダに出発いたします。そこで、今月号は教頭先生の文章を掲載いたします。

教 頭 田中 和浩

「ノーサイド」の精神

9月8日から始まったラグビーワールドカップフランス大会は、10月28日に決勝が行われ、南アフリカがニュージーランドに12対11で競り勝ち、2大会連続4回目の優勝を果たしました。本大会では、日本代表は自国開催で初の8強に躍進した2019年大会を超える成績を目指しましたが、1次リーグで、イギリス、アルゼンチンに敗戦を喫し、残念ながら1次リーグの突破は叶いませんでした。

みなさんは、ラグビーで用いられる用語の一つに「ノーサイド」という言葉があることを、ご存じでしょうか。「ノーサイド」とは、ラグビーの試合終了時の言葉を意味していますが、試合が終了すれば「敵と味方、勝者と敗者の区別がなくなり、お互いの健闘をたたえよう」というメッセージが込められています。ラグビー発祥の地イギリスでは、現在、試合終了時には「フルタイム」という言葉が使われていますが、日本では今もなお生き続けている言葉です。

また、ラグビーを知らない人でも、ニュージーランド代表チーム（オールブラックス）が国際試合の前に「ハカ」という民族舞踊を行うシーンを見たことのある人は多いのではないのでしょうか。「ハカ」は、かつてニュージーランドのマリオ族の戦士が戦いの前に、手をたたき、足を踏み鳴らしながら自らの力を誇示し、相手を威嚇するものでしたが、オールブラックスが行う「ハカ」には、対戦する相手に対する敬意や感謝の気持ちが込められています。

イギリスで始まったラグビーは、世界中の国で愛され、その国の文化に根付き発展を遂げ